

製品安全性データシート

作成年月日：2012年 2月 29日

改訂年月日：

1.製品及び会社概要

整理番号 : RG20121-1
製品名 : プロサルト液剤
会社名 : 株式会社理研グリーン
住所 : 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 8階
担当部門 : 研究開発部 企画開発課
電話番号 : 03-6802-8587
FAX番号 : 03-6802-8303
緊急連絡先 : 同上
推奨用途及び使用上の制限 : 農薬

2.危険有害性の分類

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体 : 区分外

自然発火性液体 : 区分外

健康に対する有害性

急性毒性（経口） : 区分外

急性毒性（経皮） : 区分外

急性毒性（吸入、ミスト） : 区分外

皮膚腐食性／刺激性 : 区分3

眼に対する重篤な損傷／目刺激性 : 区分2B

皮膚感作性 : 区分外

発がん性 : 区分外

生殖毒性 : 区分外

特定標的臓器／全身毒性（反復暴露） : 区分外

環境に対する有害性

水生環境有毒性（急性） : 区分外

水生環境有毒性（慢性） : 区分外

上記に記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示 : なし
注意喚起語 : 警告
危険有害性情報 : 軽度の皮膚刺激
眼への刺激

注意書き

【予防策】

使用前に取扱い説明書を入手すること。粉塵/ヒューム/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。環境への放出を避けること。この製品を使用する時に飲食、または喫煙しないこと。全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。必要な個人用保護具を使用すること。取扱い後は多量の水と石鹸でよく洗うこと。

【緊急対応】

気分が悪い時は医師に連絡すること。流出物を回収すること。暴露または暴露の懸念がある場合は、医師の診断/手当を受けること。吸入した場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。飲み込んだ場合は、口をすすぐこと。

【保管】

涼しく換気の良い場所で保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を法、条例に従って安全に処理すること。または都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理すること。

3.組成、成分情報

単一製品・混合物の区別

	: 混合物	
化学名	: イソプロピルアンモニウム=2-(4-イソプロピル-4-メチル-5-オキソ-2-イミダゾリン-2-イル)ニコチナート	
一般名	: イマザピルイソプロピルアミン塩	
成分および含有量	: イマザピルイソプロピルアミン塩	25.0 (%)
	その他、補助成分	75.0 (%)
官報公示整理番号	: 化審法 (5)-5704 (酸として)	
化学式	: $C_{13}H_{14}N_3O_3$ (酸として)	
CAS No.	: 81334-34-1 (酸として)	

4.応急措置

一般的注意事項:

皮膚、眼及び衣服への接触を避ける。汚れた衣服は直ちに置き替える。問題が生じた場合は医師の診察を受ける。その際に、容器、ラベル、製品安全データシートを見せる。

吸入した場合:

安静に保ち、新鮮な空気のある場所へ移動させ、医師の診察を受ける。

皮膚に付着した場合:

直ちに水と石鹼で十分に洗い流す。刺激がある時は医師の手当てを受ける。

眼に入った場合:

直ちにまぶたを開き流水で15分以上洗い流した後、眼科医の診察を受ける。

飲み込んだ場合:

直ちに口をすすぎ多量の水を飲ませた後、医師の手当てを受ける。意識不明または痙攣のあるときは決して吐かせたり口から何かを与えたりしない。医師の指示なしに吐かせてはならない。

医師への注意:

症状に応じて処置(洗浄・機能回復)を講じる。特定の解毒剤はない。

5.火災時の措置

消火剤：

噴霧水、泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素

特異的な危険物質：

一酸化炭素、窒素酸化物が、火災時に発生する可能性がある。

防護服等：

自給式呼吸器及び化学物質用防護服を着用する。

その他情報：

火災が発生した場合、容器を水で冷却する。火災ないしは爆発時には発生した煙を吸わないようにする。火災現場より流出した水を集め、排水経路に流れ込まないように注意する。火災の残骸及び汚染された消火排水は法令に従って適切に処分する。

6.漏出時の措置

人的注意：

暴露防止措置に記載された保護具を着用する。眼、皮膚及び衣服への付着を避けること。汚れた衣服は直ちに置き替える。

環境への注意：

土中、排水口、地表水及び地下水へ排出しない。

処理法：

少量の場合は、適切な吸着剤(例：砂、おがくず、一般的吸着剤、珪藻土)に吸着させポンプやシャベルですくい取る。大量の場合は、流出しないように堤防やみぞを築いてポンプやシャベルですくい取る。

呼吸器を着用して掃除をすること。吸着された廃棄物などは法令に従って処分すること。漏出物は法令に従って処分すること。適切な容器に入れて密封しラベルを貼る。環境規制に照らし合わせ、水や洗剤で汚れた床や物質を洗浄すること。

7.取扱い及び保管の注意

取扱い：

正しく保管及び取扱いをするのであれば、特別な対策は必要ない。保管場所や作業場所は換気をよくする。

火災・爆発に対する保護：

正しく保管及び取扱いをするのであれば、特別な対策は必要ない。本剤は可燃性や爆発性はない。

保管：

食料品や家畜飼料から隔離して保管する。酸化剤、還元性物質から遠ざける。

その他：容器は密閉して乾燥した冷暗所に保管する。熱源より遠ざける。直射日光を避ける。

保管安定性：

室温で3年間安定。

原則として40°Cを超える条件での保管を避ける。本剤やその製品を上記に指示した温度期間および温度条件を超えて保管した場合、その品質・特性が変化することがある。

8. 暴露防止及び保護措置

最終消費者の手に渡る農薬を取り扱う際には、製品のラベルに従い使用すること(15.適用法令 参照)。研究所従事者においてはその研究所の決まりに従い、工場従事者は以下の保護具を着用する。

個人防護用具

呼吸防護具：

ガスやミストが発生した場合および換気が十分でない場合には呼吸防護具を着用する。中程度の効果のあるフィルター付きの呼吸防護具を着用する(例えば、EN143あるいは149、Type2あるいはFFP2)

防護手袋：

化学薬品耐性の防護手袋 (EN374、防護指数6、480分以上の浸透時間、例えばニトリルゴム(0.4mm)、クロロブレンゴム(0.5mm)、塩化ポリピニル(0.7mm)など)

保護眼鏡：

保護眼鏡(フレム付音ゴーグル、EN166)

保護衣：

保護衣は作業内容および暴露可能性にもとづいて選択する(例えば、作業エプロン、防護長靴、化学薬品耐性スーツ(DIN-EN準拠)。

一般的な安全衛生管理上の手段：

労働安全衛生に関する実施規準に従って取り扱うこと。皮膚、眼及び衣服への直接の接触を避ける。密閉された作業着を着用する。衣服に付着した場合は直ちに着替え、安全に廃棄すること。作業着は分けて保管することが望ましい。食料、飲料及び家畜飼料からは分けて保管し、作業所での飲食及び喫煙も避けること。作業終了または休憩時には顔や手を洗うこと。

9. 物理及び化学的性質

外観等： やや粘性のある淡黄色～暗緑色浸明液体(淡黄緑色粘稠澄明液体)、アミン臭

pH: 6.0～7.5 (原液、25℃)

引火点： 引火性なし

可燃性： 可燃性なし

爆発性： 爆発性なし

密度： 1.00-1.10g/cm³(20℃)

水溶解度： 容易に溶解

10. 安定性及び反応性

熱分解： 指示どおりの保管及び取扱いにおいて熱分解しない。

避けるべき物質： 強酸化剤、強アルカリ性物質

金属腐食性： 軟鋼、しんちゅうに対して腐食性あり。

有害反応性： 指示通りの保管および取扱いにおいて有害反応はない

有害分解物質： 指示通りの保管および取扱いにおいて有害な分解物は生じない。

11. 有害性情報

急性毒性:

LD₅₀ (ラット、経口、雌雄) >5000 mg/kg

LD₅₀ (ラット、経皮、雌雄) >2148 mg/kg

LC₅₀ (ラット、吸入、雌雄) > 5.0 mg/L (4時間暴露)

刺激性：
皮膚刺激（ウサギ）： 軽度の刺激性あり
眼粘膜刺激（ウサギ）： 刺激性あり
感作性（モルモット）： 感作性なし

その他毒性:誤用により健康に有害を及ぼす可能性がある。

12.環境影響情報

LC₅₀（コイ）： 536 mg/L (96時間)
EC₅₀（オオミジンコ）： 822 mg/L (48時間)
EbC₅₀（緑藻類）： 210 mg/L (0-72待間)
ErC₅₀（緑藻類）： 280 mg/L (24-48時間)
ErC₅₀（緑藻類）： 350 mg/L (24-72時間)

分解性および蓄積性:
イマザピルは生物学的に分解しない(OECD)

環境中への排出については、環境法令や規制・基準に従って適切に処理する。

13.廃棄上の注意

国内の法令に従って処分する。

14.輸送上の注意

運搬に際し、容器の漏れのない事を確認し、落下、転倒、衝突を避ける。取扱い及び保管上の注意の項に留意する。

15.適用法令

農薬取締法：登録番号第22900号
食品衛生法
廃掃法
化学物質管理促進法(PRTR) に該当しない。

参考情報（欧側連合の規制）

有害性シンボル：Xn, N

R-phrase: R20, R41, R50/53

S-phrase: S2, S13, S20/21, S26, S35, S39, S46, S57

表示すべき有害性物質：イマザピル

16.その他

- 1.本資料の記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、記載内容は新しい知見により改訂されることがあります。
- 2.記載の注意事項は通常の実施を前提とした参考情報です。取扱いの際は用途・用法に適した安全対策を実施して下さい。
- 3.本資料は情報提供の目的のために作成されたものであり、その記載内容を保証するものではありません。